

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	サマースクール「Wood in Culture～木のある文化へ」開催
事業主体 (連絡先)	伊那市50年の森林(もり)人材育成協議会 伊那市農林部耕地林務課林務係 0265-78-4111 (内線:2417)
事業区分	(6) 産業振興、雇用拡大に関する事業、ウ 森林づくりと林業の振興
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,124,904円 (うち支援金:891,000円)

事業内容

先人が大切に育ててきた森林資源が利用期を迎える中において、森林資源の有効活用が喫緊の課題となっている。細分化された専門家ではなく垣根を越えた広い視野を持った「木の文化」の担い手の育成が必要とされている。山村地域を舞台として、地域の幅広い関係者と都市部の林業や建築等を学ぶ学生をつなぎ、ともに森林や木材の価値について学び、考え、再発見する場としてサマースクール等を開催した。

○講演会の開催 7月5日(木)

伊那市役所 参加者65名

○サマースクールの開催 8月25日(金)～27日(日)

高遠閣、いなっせ、ますみヶ丘平地林等 参加者85名



【地元小学生による講義】

【目標・ねらい】

- ① 地域の産業・文化を担う人材の育成
- ② 森と木に関わる技能や知恵、暮らしや文化の伝承
- ③ 市民が都市住民とともに森や木と触れ合い学ぶ交流機会の拡大

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 林業に固執することなく幅広い業種から参加いただくことができた。
- ② 講演会やサマースクールを通じて、講義だけではなく、森林内でのフィールドワークにより森林林業に関する体感ができた。
- ③ 地元で総合学習を実践する伊那小学校の6年生を講師に迎えるなど、お互いに学びあう交流の機会を得る事が出来た。

※自己評価【B】

【理由】

参加者間の意見交換や交流の場など、学校や学部の枠組みを越えた学生間の交流の時間を増やすことができず時間的に足りなかった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今年度開催した、サマースクールのノウハウと人脈を今後も活用し、伊那市に豊富にある森林資源を活用しながらフィールドワークを中心とした体験型スクールとして今後も開催し、都市部の住民との交流と、次代に向けた森林づくりに向けた取組みを実施していく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある